



株式会社 長大

人・夢・技術

News Release

令和3年4月26日

2011年から取り組むフィリピン・ミンダナオ島の地域開発事業 世界25カ国から応募された66のPPP事業から投票による選定で 国連PPPフォーラムで世界第2位のアワード獲得

「ビルド・バック・ベター」とSDGsに貢献する「ピープル・ファーストPPP」の好事例で

株式会社長大(東証一部上場、証券コード 9624。永治泰司・代表取締役社長。以下「当社」)は、国際連合欧州経済委員会(UNECE; United Nation Economic Commission for Europe)主催のもと、4月22日から26日に開催された第5回国際PPPフォーラム(5th UNECE International Public-Private Partnerships Forum)において、2011年から取り組む「フィリピン国ミンダナオ島カラガ地域総合経済開発(※1)」が、22日の『「ビルド・バック・ベター」インフラストラクチャー・アワード』のセッションで、**世界25カ国から応募のあった66のPPP事業から、5つのPPP事業のみに厳選されるファイナリスト**に残り、プレゼンテーションを実施、その後のUNECEメンバー国やPPP専門家ら881名による投票を得て、**第2位のアワードを見事に獲得、表彰を受ける栄誉**を達成しました。

これは、UNECEが、ポストコロナで求められる「ビルド・バック・ベター¹」(BBB: Build Back Better)やSDGsの達成に貢献するピープル・ファースト PPP を評価する手法を開発・構築したことを受け、実際のプロジェクトのうち、他の地域やセクターに展開・普及し得るベストプラクティスを評価するために、2月末から4月末までの2か月間にわたり応募が行われていたものです。本応募には、UNECEが新たに構築したピープル・ファースト PPP の評価指標に沿って自己評価した評価票と、対象事業を紹介するビデオを提出が必要でした。短い応募期間にも拘わらず、**世界25カ国から66プロジェクトという多数の応募**がありました。

プロジェクトの評価は、まず、UNECEの一次スクリーニングにより31プロジェクトに絞り込まれました。その後、**経済効果や地域開発へのインパクト、ビルド・バック・ベターとしての意義やSDGsへの貢献の度合い、提出された自己評価票と紹介ビデオを基に、5つのプロジェクトがベストプラクティスのファイナリストとして選定(※3)**されました。この中に、当社が2011年から取り組む「**フィリピン国ミンダナオ島カラガ地域総合経済開発**」が、日本で唯一**選定**されています。アジア圏でみても、選定されたのは2つの事業だけでした(もう一件は中国)。

最終選考は、4月22日から26日に、スイス・ジュネーブにある国連欧州本部のパレ・デ・ナシオンを拠点に、W

¹ 単に状況を元通りにするのではなく、より環境負荷が少なく、よりサステナブルな計画を立てる考え方

ウェブ形式で開催された第 5 回国際 PPP フォーラムの「『ビルド・バック・ベター』インフラストラクチャー・アワード」と題したセッションで、UNECE エリザベス・ターク局長の司会の下、4 月 22 日（ジュネーブ時間 15 時～17 時／日本時間 22 時～24 時）に行われました。

UNECE メンバー国や世界各国の PPP 専門家らが聴講する中、「長大が取り組むピープル・ファースト PPP (Chodai's People-first PPP)」と題したビデオ（※4）が紹介されるとともに、海外事業本部グローバル事業推進部のアシスタントマネージャーであるジェット・トミー・トレンティエノが登壇、ビルド・バック・ベターや SDGs 達成への貢献について 5 分間のプレゼンテーションを行いました。

5 件のファイナリストによるプレゼンテーションの後、フォーラム参加者の投票（ジュネーブ時間 17 時～18 時／日本時間 24 時～翌 1 時）による最終選考が行われ、**合計 881 の投票の結果、当社が応募した「フィリピン国ミンダナオ島カラガ地域総合経済開発」は世界 2 位の評価**を受けたものです。

なお、当社は 2017 年にも UNECE が開催した国際 PPP フォーラムにおいても、世界から集めたベストプラクティスの 10 事業の 1 つとして選定されており、今回が 2 度目の選定となります。

当社は、2011 年に東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻／アジア PPP 研究所が実施した、フィリピン国ミンダナオ島ブトゥアン市での PPP 実現可能性調査に参加し、これを契機に本事業の取り組みが始まりました。東洋大学元教授で、現在は同大学アジア PPP 研究所所長であるサム田渕氏は、上記調査以降、当社を指導・視点してきたほか、UNECE の PPP 作業部会の共同議長を兼任しています。また、2019 年には当社社員で、長大フィリピン・コーポレーション社長（兼務。当時）であった加藤聡が UNECE ヘコンサルタントとして出向しました。ピープル・ファースト PPP の普及・展開に民間企業の立場で関与すると同時に、情報収集や人的ネットワークの構築といった案件の上流段階にも関わるなど、UNECE との信頼関係の構築を行って参りました。

尚、2021 年 4 月 1 日付で、サム田渕氏は当社の戦略アドバイザーに就任（アジア PPP 研究所所長並びに UNECE の PPP 作業部会議長は継続）、引き続き、本事業のほか、当社の国内外の事業展開のサポートをいただく予定です。

当社は、今回表彰対象となった「フィリピン国ミンダナオ島カラガ地域総合経済開発」の実現に向けて、2011 年からこれまでの間、地元企業とのパートナーシップを基礎として、地域の資源を最大限に活用しながら、低炭素な経済開発を進める活動を継続してまいりました。昨今、世界的に脱炭素の活動が急速に高まる中、これまでの事業活動を加速化することで、地域の魅力をさらに向上させるべく、当該活動を引き続き推進してまいります。

また、東南アジアを中心にアジア各国でも同様なコンセプトに基づき、地域の環境改善、地球温暖化対策、資源循環型社会に資する持続可能な事業の発展に、引き続き貢献してまいります。

■お問い合わせ

宗広裕司（むねひろ・ゆうじ） 株式会社長大 海外事業本部 グローバル事業推進部長 Eメール: munehiro-y@chodai.co.jp 電話: 03-3532-8623	加藤 聡（かとう さとし） 株式会社長大 執行役員 経営企画本部エグゼクティブマネージャー 長大フィリピン・コーポレーション 会長 Eメール: katou-sa@chodai.co.jp 電話: 03-3639-3465	大浦 雅幸（おおうら まさゆき） 株式会社長大 海外事業本部 グローバル事業推進部 課長 長大フィリピン・コーポレーション 社長 Eメール: oura-m@chodai.co.jp 電話: 03-3532-8623
---	---	--

■参考資料:

(1) 受賞式典の様子



司会(UNECE エリザベス・ターク局長)

発表風景(当社グローバル事業推進部 トレンティーン)

(3) 表彰式における講評

プレゼン終了後から、わずか1時間の投票であったにも関わらず、合計881票の投票があり、その中で、当社が提出した『フィリピン国ミンダナオ島カラガ地域総合経済開発』は、「ブラジル国ピアウイ州における果物・野菜市場プロジェクト」に次ぎ、「スペイン国テネリフェ島におけるテネリフェ・トラムプロジェクト」と並んでの2位でした(以下、表彰式における講評)。

英語原文	<p>Here is the announcement by the Executive Secretary on the winners and joint runners up: 881 votes were cast by the participants for the UNECE Building Back Better infrastructure award 2021 and <u>the winner is the project from Brazil (a fruit and vegetable market in the State of Piaui), closely followed by the joint runners up from Spain (light rail train in Tenerife) and the Philippines (regional development programme in Caraga).</u></p> <p>It is clear that the Forum participants recognise these projects for their multiple impacts that are truly People-first and Build Back Better. They address the challenge of poverty, the creation of local jobs, health, food security, waste, the use of renewable energy and their aspiration to be carbon neutral, sustainable mobility and getting people to use public transport, and provide real solutions on the ground, combining social, environmental, and economic criteria. We need far more of these projects for Building Back Better.</p> <p>Congratulations to the winners. I would like to thank all the competitors, the international Jury and yourself, the participants for your participation in the electronic vote, which is a first in our PPP work, for taking part in this successful competition.</p>
日本語訳	<p>受賞者と共同受賞者の発表をご紹介します。UNECE ビルド・バック・ベター・インフラ賞 2021 には、参加者から 881 票が投じられ、<u>ブラジルのプロジェクト (ピアウイ州の青果市場) が受賞し、スペイン (テネリフェ島のライトレール列車) とフィリピン (カラガ州の地域開発プログラム) が共同受賞者として続きました。</u></p> <p>これらのプロジェクトは、真の意味で ピープル・ファーストと ビルド・バック・ベターを実現する複数のインパクトを持っていることが明らかです。これらのプロジェクトでは、貧困、地元の雇用創出、健康、食料安全保障、廃棄物、再生可能エネルギーの利用とカーボンニュートラルの実現、持続可能なモビリティと公共交通機関の利用促進などの課題に取り組んでおり、社会的、環境的、経済的基準を組み合わせた真のソリューションを現場で提供しています。私たちは、ビルド・バック・ベターを進めていくために、このようなプロジェクトに、より多く取り組んでいく必要があります。</p> <p>受賞者の皆さん、おめでとうございます。また応募を頂いた皆様、国際審査員の皆様、そして私たちの PPP 活動では初となる電子投票に参加して下さった参加者の皆様、皆様にご参加して下さったことに感謝を申し上げます。</p>

(3) 表彰状と国連欧州経済委員会によるアナウンスのホームページ

UNECE announces winners of its Building Back Better infrastructure award 2021

28 April 2021

In the framework of its fifth International PPP Forum (22-26 April 2021), UNECE organised a competition to showcase the best People-first PPP projects contributing to 'Build Back Better' from Covid-19.

Projects needed to address the following issues: stakeholder and community empowerment; poverty and inequalities; women's empowerment; environmental sustainability, climate change and resilience. By utilising the UNECE People-first PPP Evaluation Methodology for rating projects, the competition also served to help test its effectiveness and use.

The winners were selected from a total of 66 projects from 25 countries. 881 electronic votes were cast.

Announcing the winners UNECE Executive Secretary Olga Algayerova stated: “We must look to a better future and recovery, learning from the experience of COVID-19 to identify and implement the projects, especially at the local level, so that resilient and more sustainable societies will emerge – leaving absolutely unambiguously no one behind. We need so many more of these projects.”

- First place was awarded to Nova Ceasa, a fruit and vegetable market project in Piauí State, Brazil.
- Joint runners up were a light railway project in Tenerife, Spain and **a regional development programme in Caraga, Philippines.**

All projects (video presentations are available online) were recognised by the jury for their contributions to poverty reduction, local job creation, enhancing health care services and food security, reducing waste, using renewable energy and aspiring to carbon neutrality. All projects provide real solutions on the ground and by combining social, environmental and economic criteria, significantly improved people's lives.

The Forum enhanced the People-first approach to PPPs amongst key stakeholders and provided a platform for local authorities to identify priority projects in infrastructure and PPPs that can build community resilience.

(<https://unece.org/economic-cooperation-and-integration/press/unece-announces-winners-its-building-back-better> から転記)

UNECE ビルド・バック・ベター・インフラ賞 2021 の表彰状とアナウンスのホームページ

(4) フィリピン国ミンダナオ島カラガ地域総合経済開発 (※1)

★ 出資済み/決定
★ コンサル業務提供/予定
 (※薄色は検討・協議中)
 【2021年4月現在】

2014年度 JICA案件化調査で日系中小企業が開発・製造する土壌・水質改良資材(ルオール)を適用し、放棄された養殖池の回復

エビ養殖の実証試験池
稲作事業
 ・7~8haを達成(地域の平均収量約3.7t/ha)
 ・フィルライズに登録済みの短粒米の栽培
 ・日本製高性能の精米機導入

ウナギの養殖事業
 ・100%日系メーカーの飼料による養殖
 ・生産情報公表JAS規格を取得し、食の安全・安心を創出、高付加価値化
 ・日系メーカーの燻焼き加工ライン導入
 ・日本国内老舗の加工技術移転

アシガ川小水力発電事業
 ・8MW/運転開始済み
 ・日系メーカーの水車発電機(2基)を導入
 ・JBICのツーステップローンによる融資を活用
 ・遠隔監視システム導入予定

タギボ川小水力発電事業
 ・4MW/2021年度稼働予定
 ・2015年度、JBICの支援を受けてFS調査実施
 ・アクセス兼水路の1ルート整備でコストと工期を圧縮

ワウ川小水力発電事業
 ・10MW(検討中)/上記タギボ川小水力の後推進予定
 ・2012年度、経済産業省支援でFS調査実施
 ・2014~2016.5 JICAの協力準備調査
 ・気候変動等災害に強いトンネル水路で安定システム構築

上水供給事業
 ・3万m³/日(将来8万m³/日)
 ・2015年~40年(+25年)
 ・日系メーカーより設備機器導入(浄水プラント・パイプ)
 ・2017年度経産省(増設FS)
 ・[JCM]マイクロ水力設備を導入(2018年度JCM採択)

インフラ基礎調査(OCAJI)及びIDI調査
 ・海外建設協会(OCAJI)調査で物流インフラ拡充提案
 ・2017年度 IDIによるアグサン川渡河橋梁調査実施
 ・2018年度 OCAJI調査にて港湾拡張調査

[JCM]バイオマス発電事業
 ・2015年度、経済産業省支援でプレFS調査、2017年度補助事業調査
 稲穀専焼の2.5MW発電。2021年の稼働を目指す。
 ・2018年度JCM設備補助事業採択

[JCM]風力発電事業
 ・2016年度、経済産業省支援でプレFS調査、2017年度補助事業調査
 ・2019年度、JCM設備補助事業に採択(フェーズ1の33MW)

太陽光発電事業
 ・民間独自調査開始(200MW級予定)

低炭素型工業団地開発事業
 ・14haの低炭素型工業団地(SPC設立済)
 ・PEZA認定済み
 ・2016年度、経済産業省支援で上水供給インフラ導入のFS調査

(5) 国連によってノミネートされた31プロジェクト (※2)

全体で66の応募の中から、UNECEによってスクリーニングされた31プロジェクトは下記(国連欧州委員会のホームページ)からご参照ください。

<https://unece.org/ppp/forum5/awards/BBBprojects>

(6) ベストプラクティスとして選定された5プロジェクト (※3)

フォーラムにおいて、「Finalists of the “Building Back Better” infrastructure award」として選定された5つのプロジェクトは下記です。

番号	実施国・地域	プロジェクト名	投票結果
1	バミューダ諸島(イギリス領)	International Airport Redevelopment Project	—
2	ブラジル	Nova Ceasa	1位
3	中国	Zhenjiang Sponge City	—
4	<u>フィリピン</u>	<u>Regional Development Programme in Caraga</u>	同着2位
5	スペイン	Metro Tenerife Light Rail Train	

※フォーラムのプログラムから転記(発表順)

(7) 受賞式典での上映ビデオ (※4) と関連資料

フォーラムにおいて紹介されたビデオと、国連に関連して当社の取り組みに関する参考資料です。

<https://www.chodai.co.jp/csr/pursuit/>

<https://www.chodai.co.jp/news/2020/01/013302.html>

<https://www.chodai.co.jp/news/2020/02/013303.html>